

発刊にあたって

今日、本道においては、全国を上回るペースで進行する人口の減少、少子高齢化に加え、グローバル化の進展など、教育を取り巻く環境が大きく変化する中、本道の子どもたちには、基礎的な学習内容が十分に身に付いていない、脚力や持久力に関する運動が苦手、テレビやゲームの時間が多い、1日の家庭学習の時間が少ないなどの課題が生じており、北海道教育委員会では、学校教育と社会教育を車の両輪と位置付け、全力でその解決に向けた取り組みを進めております。

こうした状況を踏まえ、道内7か所に設置している道立青少年教育施設におきましても、平成21年12月に取りまとめた「道立青少年教育施設についての基本的な考え方」に基づき、子どもたちを巡る課題に対応した、新たな体験プログラムの開発を進めております。

平成24年度は、特に、学校での朝の読書（朝読）や家での読書（家読）など、子どもたちの望ましい読書習慣の定着を目指した「子どもの読書活動の普及や啓発を図るプログラム」の開発を重点として取り組んでおり、国立青少年教育振興機構が開発した「子どもたちの生きる力を測定する調査票」（IKR調査票）や参加者の満足度についてのアンケートを活用し、プログラムの効果や課題などを分析しております。

本報告書が、子どもたちの「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成の一助となりますとともに、各市町村の社会教育事業に御活用いただければ幸いです。

平成25年12月

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課長

浅井真介